

# 北九州市 児童福祉施設等 第三者評価結果票

## 1 施設・事業所の概要

- |               |                |
|---------------|----------------|
| (1) 事業者名（法人名） | （社）ひかり福祉会      |
| (2) 事業所名      | ひかり保育園         |
| (3) 設立年月日     | 昭和24年 4月       |
| (4) 定員        | 110 名          |
| (5) 所在地       | 小倉南区中曽根一丁目 7-2 |
| (6) 電話番号      | 093-472-2869   |

## 2 評価実施日

平成27年12月15日

## 3 評価実施者

北九州市（北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会）

## 4 評価結果

### 総合評価

保育園は小倉南区下曾根駅近くの曾根郵便局隣に位置しており、近隣の曾根ひかり幼稚園や曾根市民センター等と交流が行われています。園舎は2階建てで保育室は明るく清潔に保たれています。園舎の近くの畑でサツマイモやトマトなどの菜園活動を楽しんでいます。

#### I 子どもの発達援助

保育課程は、保護者の意向や地域の実態が反映され、基本方針に基づいており、指導計画は、子どもの状況を考慮して作成されています。今後は、保育課程に園の独自性を具体的に取り入れ、全職員に周知し、適正な見直しが行われること、また、指導計画は、評価・見直しの結果を次の計画に反映し、園長又は主任保育士が助言・指導を行うことが望まれます。配慮を要する子どもについて職員会議の中でケース検討が行われています。子どもの健康状態を把握し、健康管理保健年間計画が作成されています。健康診断の結果を保護者に伝えると共に、必要に応じて医療機関の受診を働きかけています。感染症マニュアルを作成し、予防対策の情報等を保護者に提供しています。子ども達が育てた野菜を使ったクッキング活動やランチョンマット等の利用など、食事を楽しむ雰囲気づくりに配慮しています。保護者からの食事に関する相談にも対応しています。除去食については医師の診断書をもとに四者（保護者・園長または主任・担当保育士・給食調理員）会議を行い、できる限り見た目が同じように工夫し、提供されています。トイレの清掃、玩具・寝具の消毒も適切に行われ、各保育室には空気清浄機・温湿度計が設置されています。今後は、年1回実施している砂場の砂の入れ替えを含め、定期的な消毒や固定遊具への安全対策、また、一人一人の子どもがリラックスできる場所を確保することが望まれます。地域との交流やエコ活動も積極的に行われています。調査の際、子どもたちが絵本の読み聞かせに集中している姿が各クラスで見られ、日ごろからの取り組みが感じられました。日常的に自然な形で異年齢児交流も行われています。乳児保育は家庭と連携を取りながら一人一人の状況を把握して保育が行われています。保育士が子どもの意見を受けとめ、子どもが他の子どもの気持ちを受け入れられるよう配慮する姿が見られましたが、今後は、全職員が意識を持って、子ども一人一人を尊重する具体的な保育の取り組みを行い、保護者にも啓発を行うこと、また職員の人権研修を年間計画に位置づけることが望まれます。日常の保育の中で、性差に対する固定観念や役割分業意識を植え付けないように心がけています。

延長保育はゆったりとした雰囲気の中で行われています。障害児保育は専門機関との連携を図りながら行われています。職員全員の統合保育への前向きな取り組みが伺え、評価されます。

#### II 子育て支援

保護者とは、日々の連絡帳や送迎時の会話等を通して相互理解に努めています。虐待対応に関しては、子ども総合センターの虐待対応マニュアルをもとに、早期発見や防止に努めています。地域における子育て支援については、曾根市民センター主催の「フリースペースのびのびクラブ」との交流活動をしており、子育て相談にも対応しています。育児情報や行事案内はポスターやチラシを作成し、掲示しています。

#### III 地域の住民や関係機関等との連携

曾根市民センターとの交流の機会を通して情報交換に努めています。「小規模多機能ホームそね」や「北九州サニーホーム」の高齢者施設とも交流しています。また、警察と連携した地域のパトロールを通して、地域との取り組みを積極的に行っています。保幼小連携の担当者が、交流活動や連絡会などの調整を行い、連携活動が計画的に行われています。実習生や保育体験、ボランティアの受け入れ時には、園方針、意義などを事前オリエンテーションで伝えています。

#### IV 運営管理

保育理念や基本方針を明文化し、地域や関係機関への周知を図っています。園長は、職員や保護者アンケートから得た情報を受け、職員間で検討する会を設け、改善に役立っています。職員には希望や経験年数に応じた適切な研修の機会が確保され、研修内容を共有しています。守秘義務の遵守に関する規定を定め、人権に関して職員で話し合う機会が設けられています。保育内容等、必要な情報は、園内外に掲示しています。事故や災害に適切に対応できるマニュアルを各保育室に掲示し、全職員で周知しています。また、警察と連携した地域のパトロールの取り組みが行われています。食中毒発生時のマニュアルは、嘱託医や保健所など関係機関との連携、感染拡大防止等を盛り込み作成されています。

# 評価対象ごとの評価（概要）

## I 子どもの発達援助

一人一人の子どもの状況に配慮した保育が展開されているか、保育にふさわしい環境が整っているかなどを評価したものです。

評価対象	評価結果
<b>発達援助の基本</b>	<p><b>計画・記録</b>            保育課程は、保護者の意向や地域の実態が反映され、基本方針に基づいて作成されていますが、今後は、園の独自性を具体的に取り入れ、全職員に周知することや見直しが適正に行われることが望まれます。指導計画は、子どもの状況を考慮し、保育課程に基づいて作成されていますが、今後は、評価・見直しの結果を次の計画に反映すること、及び園長又は主任保育士が助言・指導を行うことが望まれます。保育の記録は「北九州市保育帳票検討会」作成の様式を使用しています。必要な情報は関係する職員が連絡ノートで確認しています。</p> <p><b>会議</b>            配慮を要する子どもについて職員会議の中でケース検討が行われ、全職員に周知されています。指導計画の中に、会議で話し合われた内容や子どもへの関わり方などが反映されるとともに、保護者とも連携が図られています。</p>
<b>健康管理・食事</b>	<p><b>健康管理</b>            子ども一人一人の健康状態を登園時の視診や保護者からの口頭連絡等で把握しています。健康管理マニュアルが整備されており、職員研修も行われています。健康診断の結果を文書や口頭で保護者に知らせ、必要に応じて医療機関の受診を働きかけています。</p> <p><b>感染症</b>            感染症に関するマニュアルを作成しており、関係機関作成のチラシや予防対策の情報を保護者に提供しています。また、感染症の流行時の対応方法などについて、職場研修が行われています。</p> <p><b>食事</b>            子ども達が育てた野菜を使ってクッキング活動が行われています。また、ランチョンマット等を利用して食事を楽しむ雰囲気づくりに配慮しています。年2回、給食試食会を開催し、食育への啓発が行われ、保護者からの食事に関する相談にも対応しています。給食調理員は保育士と情報交換を行い、子どもの食事の状況を把握しています。除去食については、医師からの診断書をもとに、四者（保護者・園長または主任・担当保育士・給食調理員）会議や保護者との日常的な情報交換を行い、できる限り見た目が同じように工夫し、提供されています。</p>
<b>保育環境・保育内容</b>	<p><b>保育環境</b>            保育室には、交流している地域の年長者に教えてもらった折り紙作品が飾られています。トイレの清掃、玩具等の消毒も適切に行われ、各保育室には空気清浄機・温湿度計が設置されています。今後は、年1回実施している砂場の砂の入れ替えを含め、定期的な消毒を行うことや固定遊具への安全対策、また、一人一人の子どもがガリラックスできる場所を確保することが望まれます。</p> <p><b>保育内容</b>            保育室に各年齢に即した玩具が整備され、子ども達が自由に取り出して遊べるように配慮されています。子ども達が地域に交通安全を呼びかける「ひかりパトロール隊」や高齢者施設訪問など、地域との交流に取り組み、プルタブ収集等、エコ活動も行われています。調査の際、子どもたちが絵本の読み聞かせに集中している姿が各クラスで見られ、日ごろからの取り組みが感じられます。玩具の収納ケースにラベル表示をし、文字や記号への関心が持てるよう環境に配慮しています。サツマイモ、トマト、きゅうりなどの菜園活動を通して、収穫する喜びを体験させています。調査の際、温かな言葉づかいで、子どもとの対話に配慮している保育士の姿がみられ、子ども一人一人への理解を深め、受容に努めている姿勢が伺えました。乳児保育は連絡帳などで家庭と連携を取りながら、一人一人の状況を把握し、保育士が丁寧に関わっていました。</p> <p><b>人権・性差</b>            保育士が子どもの意見を受けとめ、子どもが他の子どもの気持ちを受け入れられるよう配慮する姿が見られました。今後は、全職員が意識を持って、子ども一人一人を尊重する具体的な保育の取り組みを行い、保護者にも啓発を行うこと、また職員の人権研修を年間計画に位置づけることが望まれます。日常の保育の中で、性差に対する固定観念や役割分業意識を植え付けないように心がけています。</p> <p><b>延長保育・障害児保育</b>            延長保育はゆったりとした雰囲気で行われています。障害児保育は保護者と連携をとり、専門機関の助言を受けながら行われています。職員全員の統合保育への前向きな取り組みが伺えます。</p>

## II 子育て支援

子育てに関する保育所と保護者との相互理解や、地域における子育て支援の取り組みなどを評価したものです。

評価対象	評価結果
者の育 入所 者の 育 支 援 保 護	<p><b>保護者との関係・虐待</b></p> <p>保護者とは、日々の連絡帳や送迎時の会話を通して相互理解に努めています。また、全保護者を対象に個人懇談が行われています。「相談箱」を設けたり、電話で相談に応じるなど、気軽に相談できる雰囲気づくりをしています。虐待対応に関しては、子ども総合センターの虐待対応マニュアルを利用し、早期発見や防止に努めています。</p>
育 支 援 地 域 の 子	<p><b>地域支援</b></p> <p>園庭・遊戯室を開放し、曾根市民センター主催の「フリースペースのびのびクラブ」との交流活動をしています。また、随時見学者を受入れ、必要に応じて主任保育士が子育て相談に対応しています。育児情報や行事案内等は、ポスターやチラシの掲示で適宜行っています。</p>

## III 地域住民や関係機関等との連携

地域の最も身近な児童福祉施設としての役割を果たしているか、関係機関等との連携を図っているかなどを評価したものです。

機 関 ・ 団 体 と の 連 携 地 域 の 住 民 や 関 係	<p><b>地域での役割・その他機関との連携</b></p> <p>曾根市民センター主催の「ふれあいまつり」の事前打合せや「フリースペースのびのびクラブ」との交流の機会を通して情報交換に努めています。「小規模多機能ホームそね」や「北九州サニーホーム」の高齢者施設とも交流しています。また、地域パトロールなどを通して、地域での取り組みが積極的に行われています。保幼小連携担当者が、交流活動や連絡会などの調整を行い、計画的に連携が図られています。また、学校開放日には小学校の授業参観に出向いています。</p>
ン テ ィ ア 実 習 ・ ボ ラ	<p><b>実習等の受入</b></p> <p>実習生や保育体験、ボランティアの受け入れ時には、園方針、意義などを事前オリエンテーションで伝えています。また、職員には受け入れの意義、日程などを周知しています。受入れ担当者（主任保育士）は、「子育て支援員養成研修」を受講しています。</p>

## IV 運営管理

保育に関する基本方針等が策定されているか、職員研修などの取り組みがなされているかなど、組織としての運営管理を評価したものです。

組 織 運 営 基 本 方 針	<p><b>理念・方針</b></p> <p>保育理念や基本方針を明文化し、園外への掲示やリーフレットの配布など、地域や関係機関への周知を図っています。</p> <p><b>保育の質の向上・研修</b></p> <p>園長は、職員からの意見・提案や保護者アンケートから得た情報を整理し、職員間で検討する会を設け、改善に役立っています。各職員の希望や経験年数に応じた研修計画を作成し、適切な研修の機会が確保されています。研修の報告レポートを全職員に回覧し、研修内容を共有しています。</p>
安 全 ・ 衛 生 管 理 情 報 提 供 守 秘 義 務 の 遵 守	<p><b>守秘義務・情報・安全</b></p> <p>守秘義務の遵守に関する規定を定めています。人権に関する研修会や秘密保持の方法等について職員で話し合う機会が設けられています。また、保育の記録は、適切に管理されています。見学者に対応するとともに、保育目標・保育内容を記したしおりを希望者に配布したりしています。必要な情報はポスターやチラシを作成し、園内外に掲示しています。事故や災害に適切に対応できるマニュアルを各保育室に掲示し、全職員で周知しています。また、毎月の避難訓練や警察と連携した地域パトロールの取り組みが行われています。食中毒発生時のマニュアルは、嘱託医や保健所など関係機関との連携、感染拡大防止等を盛り込み作成され、保育室に掲示しています。</p>